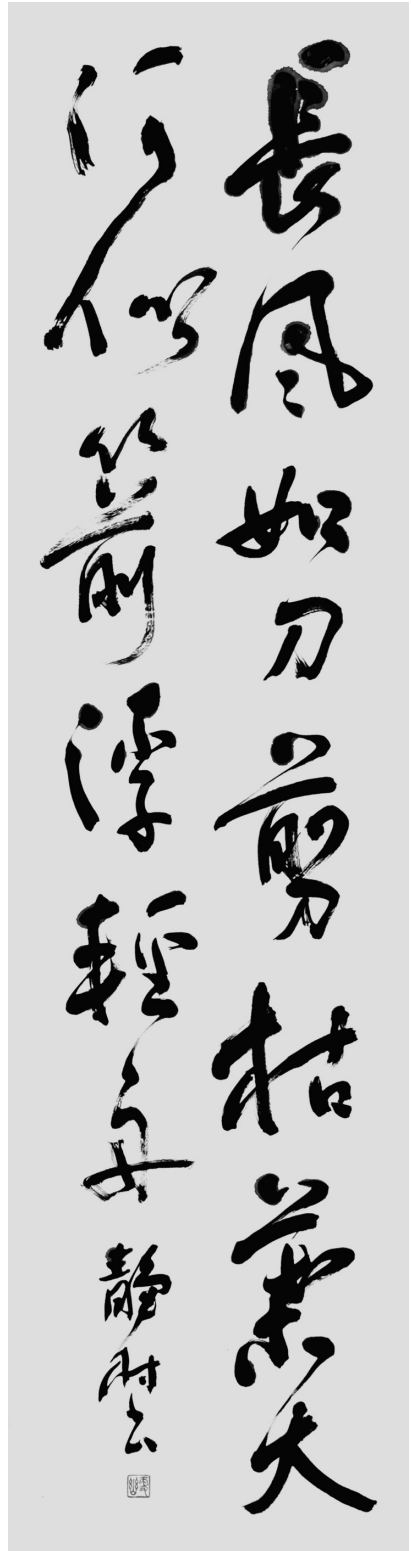


A

鈴木静村書

長風如刀剪枯葉 大河似箭浮輕舟(韋応物)
長風は刀の如く枯葉を剪り、大河は箭に似て輕舟を浮ぶ。



B

概観

一年間を顧みた。思いつく第一は筆の弾力。パネの問題。筆の弾力を遣いこなしている人が案外少ない?のとはということ。これは用筆法の根幹の問題であり、見逃すわけにはいかない。徹底習得してほしい。いや、習得しなければならぬこと。特に初歩段階では、この習得は必須中の第一。今からでも決して遅くない。覚え込んでほしい。



主な文字について

長風 連続させる意気込みで。如刀 連続の用筆。剪 前 大きく。枯 墨継ぎ、偏旁を変化。葉大 連続。河似 A草書連続。箭 渴筆にも「味」を。浮 墨継ぎ。B 軽 と連続。輕 A 舟 と連続。舟 B 一画目喰い込みなく失敗。活線で表出を。二字連続を多用、筆のつながりに主点を。

訳：遠くから吹きくる風は、刀のように鋭く枯れ葉を切り落とし、大きな河の流れは矢よりも速く軽い舟を浮かべて下る。

予告 昇試第一部漢字 (三月二十二日締切)

隠几讀書寒入骨

開門落雪皓平階 (楊誠齋)

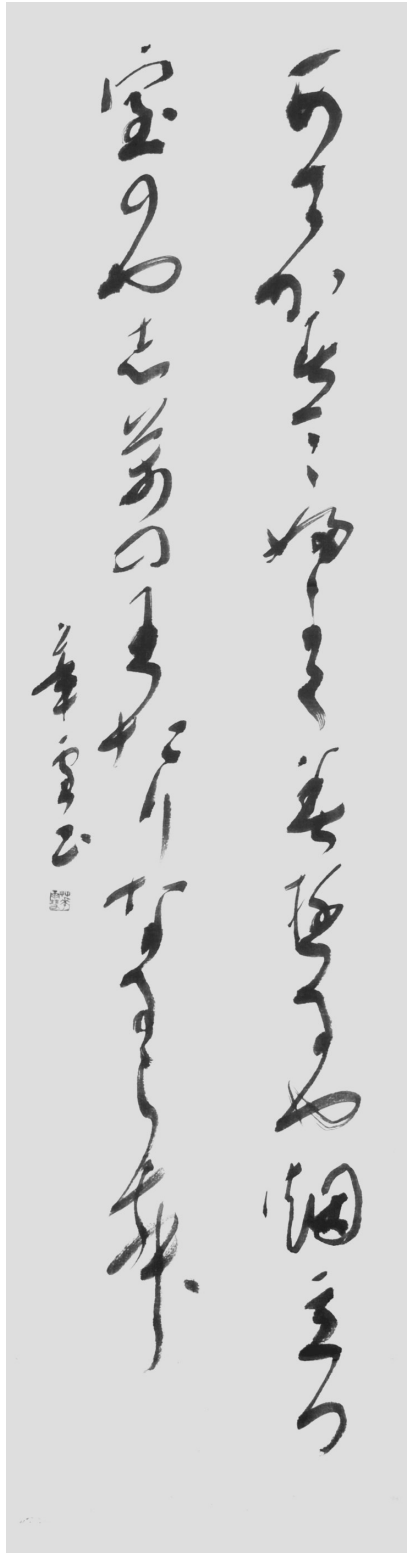
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

あさ霞ふかく見ゆるやけぶりたつ室の八島のわたりなるらん(新古今和歌集)
あさか春三婦可久美遊るや烟立つ室のや志萬の王たりなるら舞

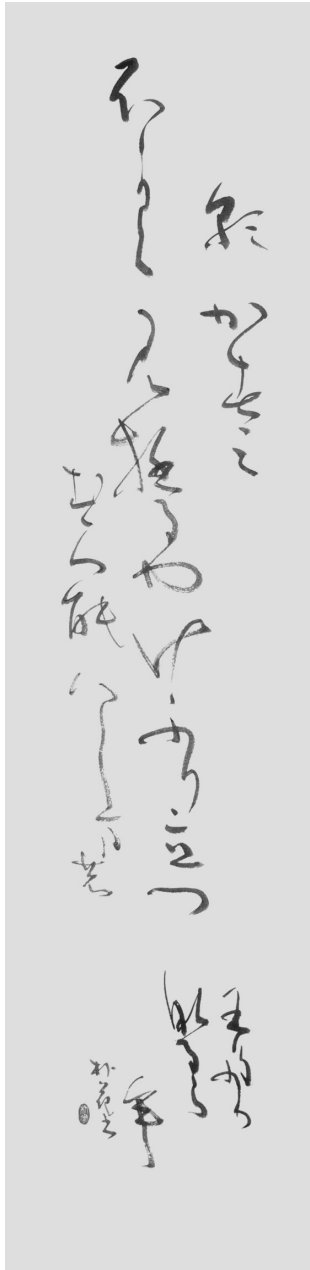
藤原清輔朝臣



B

向山朴花先生書

朝か春三不可久見遊るやけふり立つむろ能八し万農王多利那るら牟



学 び 方

今回は、上下の散らしの構成です。五七五七句までを上群として主体的な構成とし、下群の終句は、上との調和をはかりながらすると作品を安定させる効果があります。
一行目、テーマの「朝霧」を単独で置き、二行目は、伸びやかな広がり、「疎」の表現をとります。三行目は、二行目に添わせるように、控え目な小粒の文字で次第に濁筆にします。二、三行目は、ゆるやかに右へ流して下群への移動を意識します。
下群は、墨を入れ、やや細字で「密」に連綿し、「かたまり」で引き締め、存在感を出します。細字は特に、筆を立ててリズムカルに運筆することをお勧めします。
歌意・朝霞が深く見える場所が、煙立つことで有名な室の八島の辺りだろうか。

藤原清輔は、六条頭輔の子。長年、詠歌、官途の機会に恵まれぬ時が続いた。
父没後、平安末期から、俊成と共に歌壇の指導的立場を占める。歌学者・歌人として業績を残し、その歌風は、面白くも寂びたるも、多種多様の作風で詠じた。
百人一首の中の「長らへば…」の歌は、三十代の不遇な時期の心境を詠じたといわれる。

予告 昇試第一部かな (三月二十一日締切)

木のものすみかも今はあれぬべし春しくれなばたれか訪ひこん (新古今和歌集)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

我が室思い邪無し(蘇東坡)

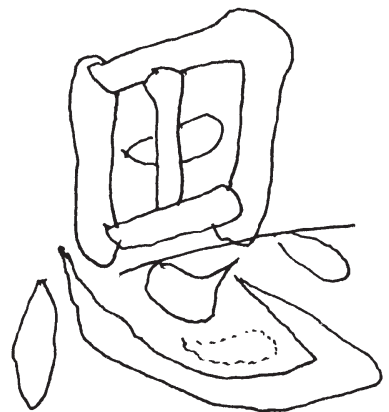
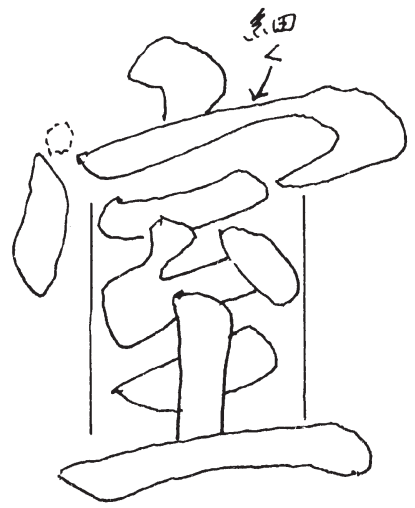
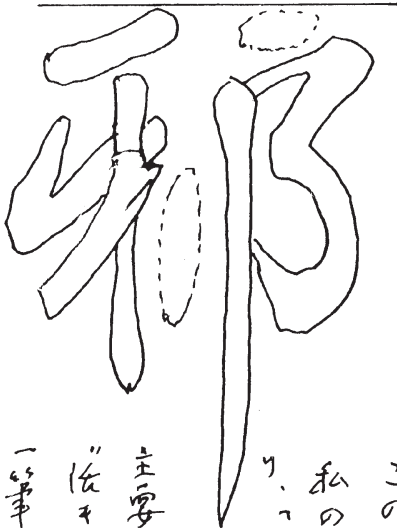
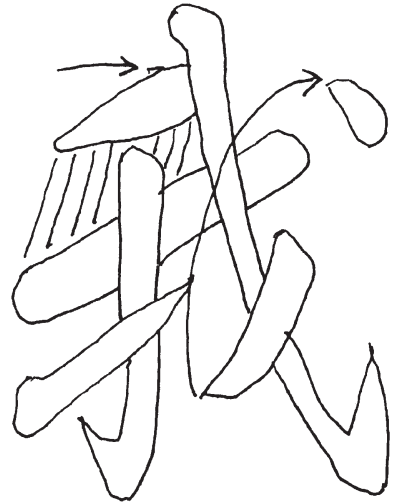
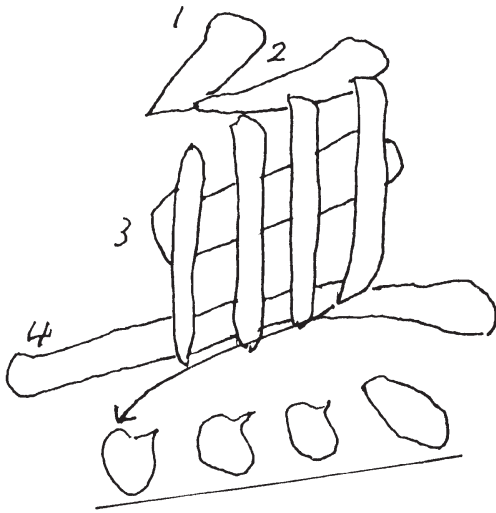


訳：我すまいには邪念がない。

▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ①漢字部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新

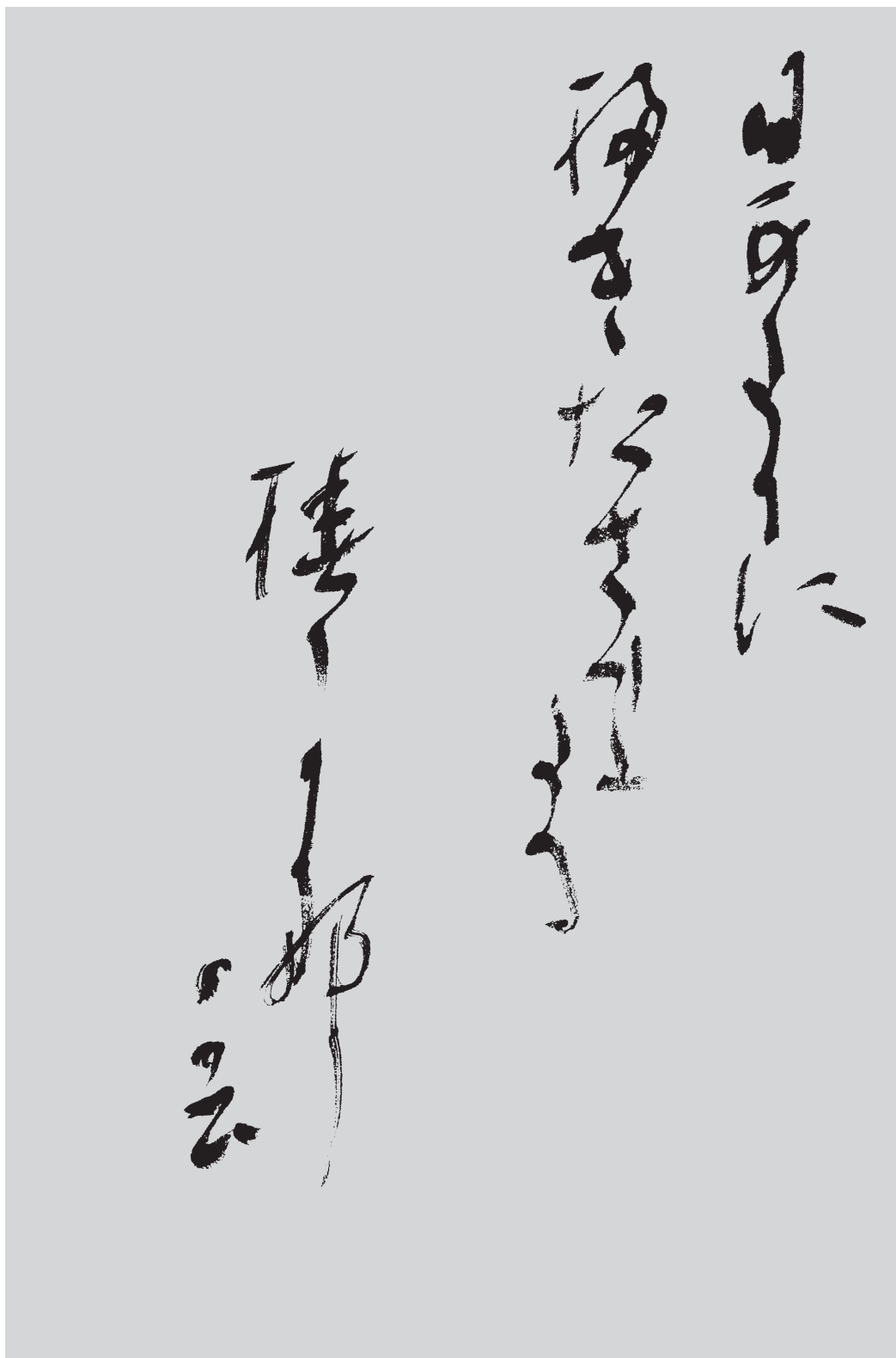
会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。



主要画について
 この文字も群を一目見て
 私の好々(綺麗)？、あ
 り、「我」の才五画、「邪」
 の末画がこの作は
 主要画。この画は特に、
 「後」の表出、よまよ
 う一筆投入れて貰いたい。

平岡華雪先生書

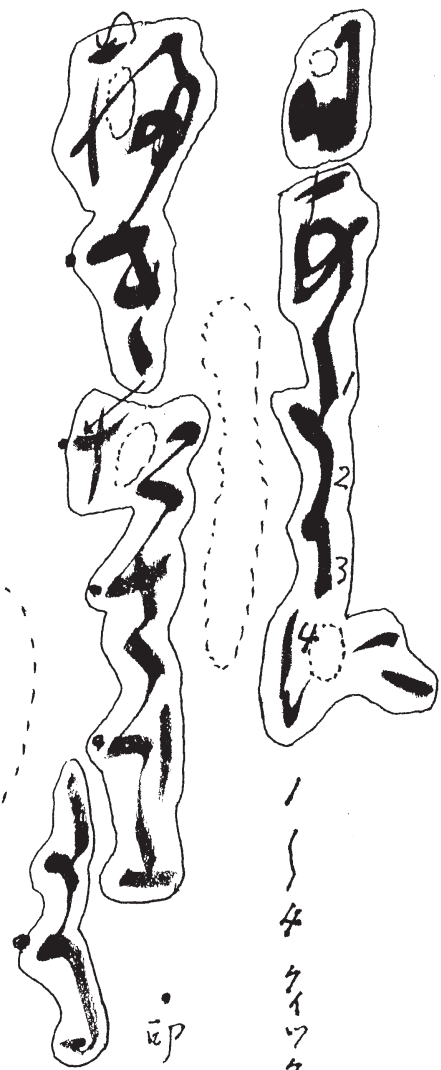
日あたりに掃き出されたる椿かな(三猿郎)



予告 昇試第一部かな (三月二十二日締切)

あかざりし花の名残とみ吉野の山は青葉もなつかしきかな (本居宣長)

変体かなの習熟を—
 かな作品の選評の中で
 「変体かな」についての注意
 が多い。特に初歩段階の
 出品者にとっては心すべしこと。「変体かな」の習熟は必須の
 第一、平かなを取り他人のほい。この評選中にも「変体かな」四字表出されてくる。
 字典等を参考に、自分のものにしよう。

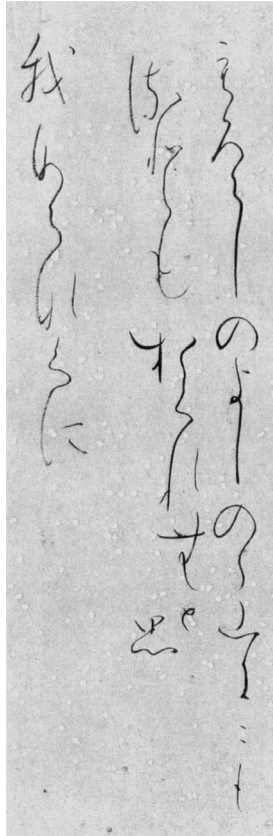
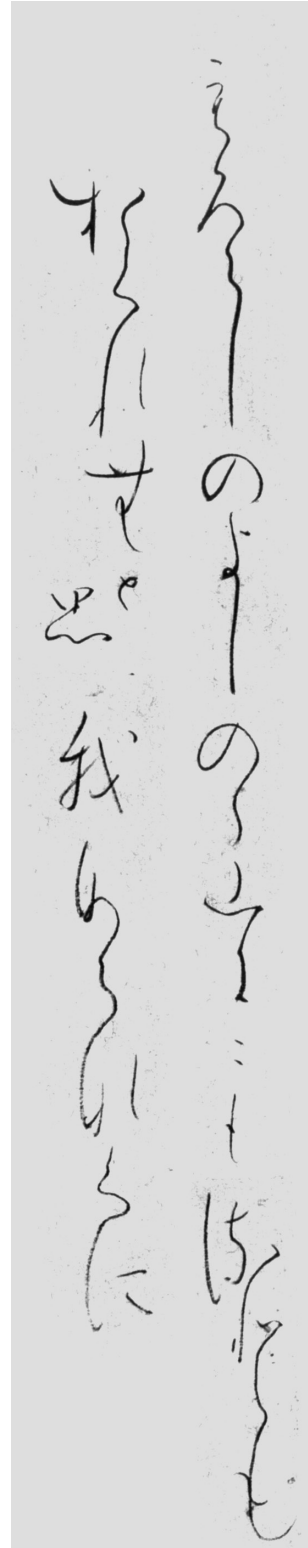


ノノ々々 イイワケのりかむで流水を。

・印はく受ける

宮 絢子先生担当 元永本古今集

※条幅臨書部は出品料無料です。



もろこしのよしの、山にこもるとも
 * をくれんと思我ならなくに
 ※「古今集」には
 「を」となっている

毛ろこしのよしの、山も流登も
 於くれ無と思我那ら那くに

筆圧を増しながら、次の文字へ連なっている。

四文字連綿



○連綿線の中にある筆圧の変化は見落とせません。



△学び方

1、連綿の妙

○淀みない連綿はゆったりとした呼吸を感じさせます。

三文字連綿



2、力強い縦画



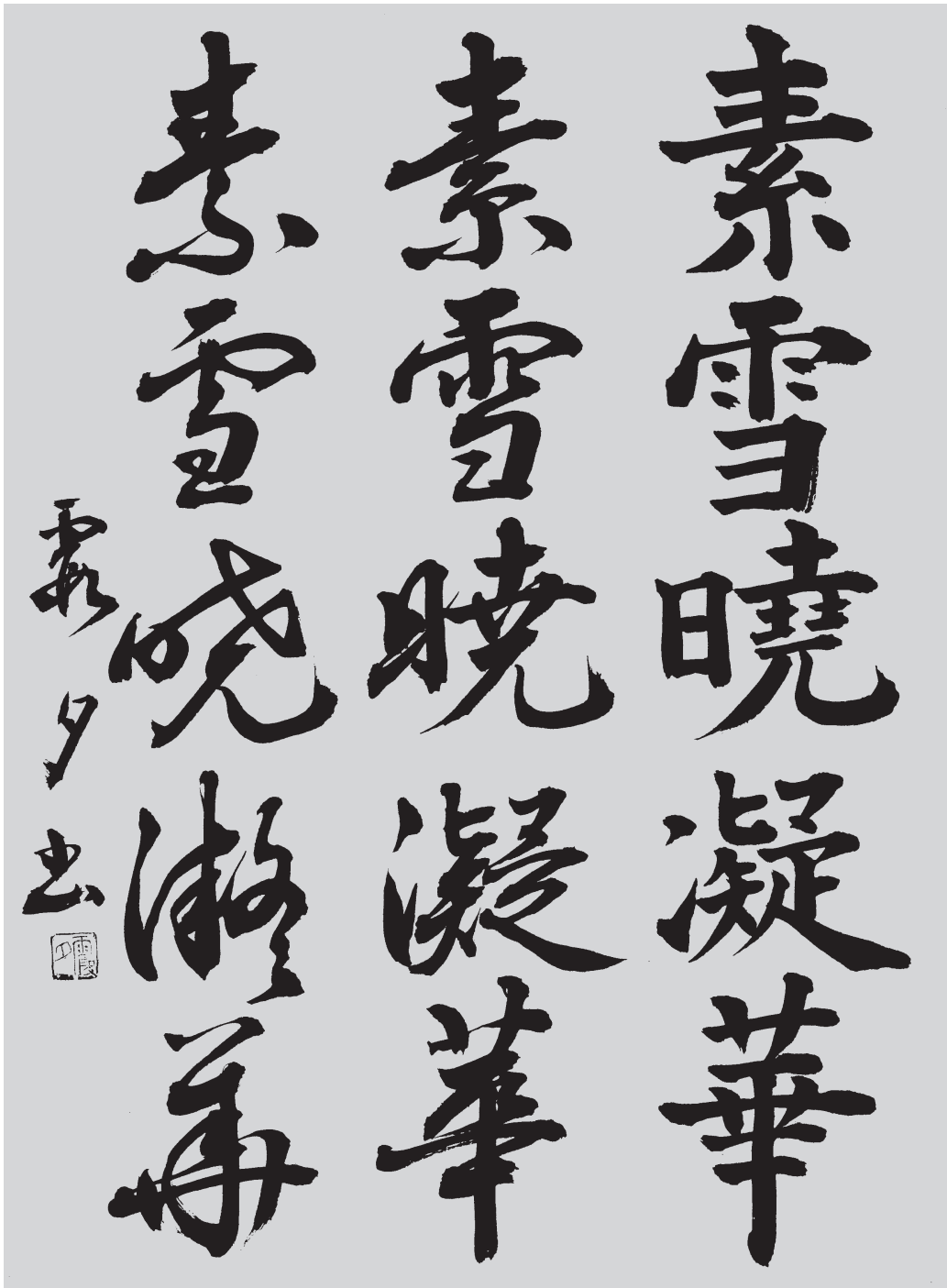
筆圧をかけた力強いたて画と、穂先を利かせた鋭い曲線が心地よいコントラストを感じさせます。

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

外川霞夕先生書

素雪曉凝華（太宗）
素雪、曉に華を凝す。

訳：真白き雪が夜明方に花を咲かせた様に見える。



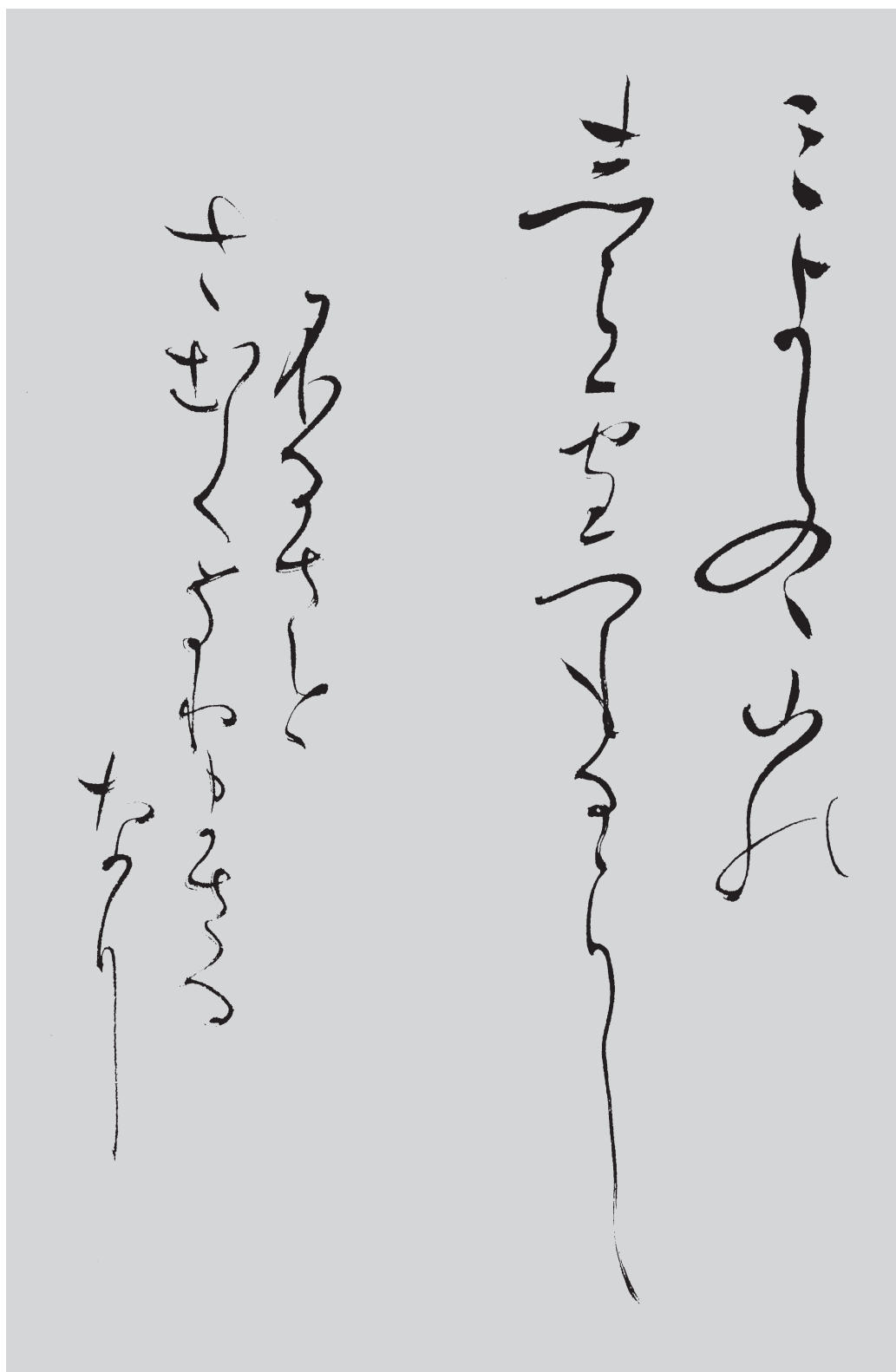
予告 昇試第二部漢字（三月二十二日締切）

美景恋歡賞

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

高塚竹堂先生書

みよしのの山の白雪つもるらし古里^{ふるさと}さむく成り^なまさるなり（古今和歌集 坂上是則）
三よしの、山能^の志ら雪つもるらし不^ふるさとさむく奈利^な末^まさるなり

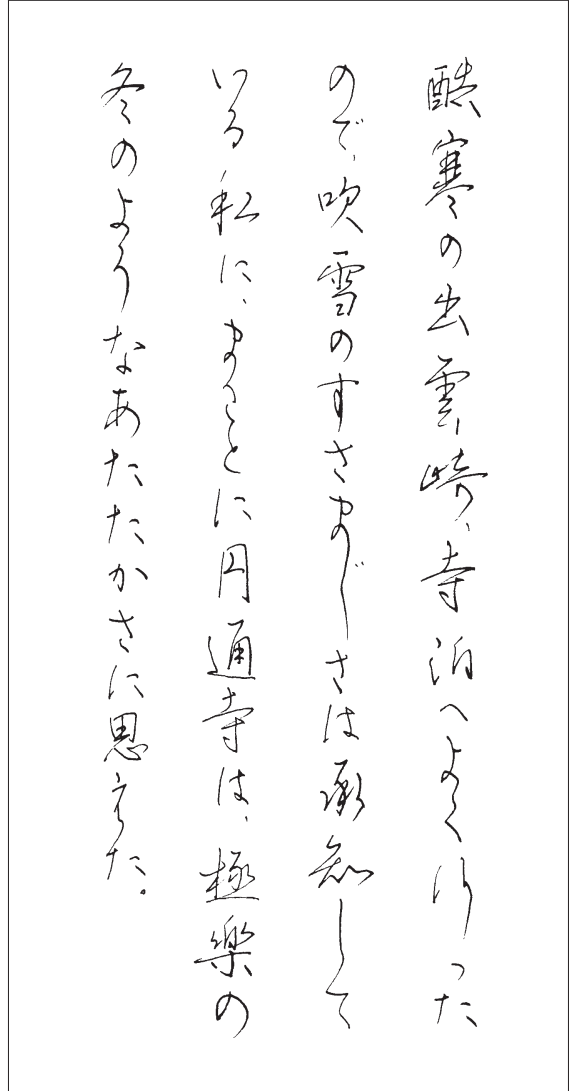
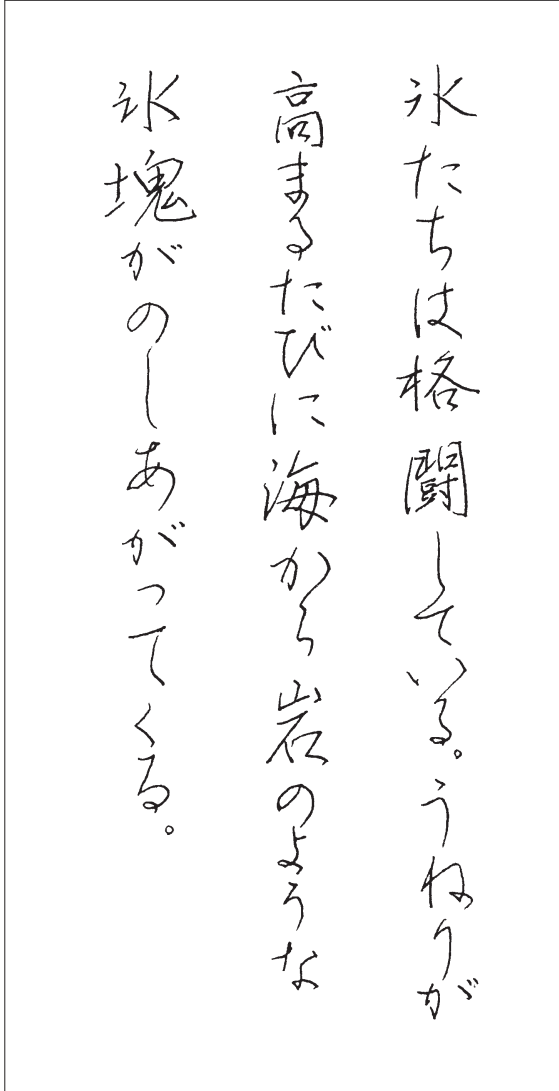


松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

酷寒の出雲崎、寺泊へよく行ったので、吹雪のすさまじさは承知している私に、まことに円通寺は、極楽の冬のようなあたたかさに思えた。

〔良寛を歩く〕水上 勉

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題1 六〇〇円
- (6) 課題2 三〇〇円

課題1 石原春香先生 三三七〇〇八七

課題1 高崎市楽間町二四ノ二一

課題2 松浦江波先生 二五二〇二四三

相模原市緑区橋本六ノ四二ノ一九

課題2 (初段階以下)

氷たちは格闘している。うねりが高まるたびに海から岩のような氷塊がのしあがってくる。

〔「白いページ」開高 健〕